

市民からの意見について

1 総合計画に関する地域別集会「みや・未来トーク」について

(1) 趣旨

第5次宇都宮市総合計画の作成にあたり、より多くの市民から、これからの本市まちづくりにおける夢や、思いなど、ご意見を直接お伺いするため、市民アンケートの結果や人口推計、これからの時代展望など、「計画作成にあたっての基本的事項」、「まちづくりの重点課題」と「目指すまちの姿」について説明し、意見交換を行った。

(2) 日程等

日程	場所	参加人数
11月15日(木) 18:30～	国本地区市民センター	105人
11月20日(火) 18:30～	雀宮地区市民センター	65人
11月26日(月) 18:30～	平石地区市民センター	67人
11月29日(木) 18:30～	田原コミュニティプラザ	64人
12月 2日(日) 13:30～	市役所 14階 14大会議室	52人

(3) 意見

分野	意見
◆ 全体的事項に関するもの	
道州制・合併について	宇都宮市は75万人以上の政令指定都市を目指すべき。15年後を見通せば、道州制の問題等も展望される。人口200万人、全県を宇都宮市とするくらいの展望を、ぜひ持つべきである。そして、その目指す方向性、意気込みを総合計画に盛り込んで欲しい。(他1件)
	宇都宮市が大きくなれば良いのか。都市が大きくなること、そのものに意義は感じられない。その意義について、もっとはっきりと計画に示してほしい。
人口推計と居住について	2015年をピークに人口が減っていくとのことだが、人口重心という考えを持つべきである。均一な人口バランスを誘導するような施策をとることが、これからの本市に必要なである。

I 健康・福祉・安心分野に関するもの	
少子高齢化について	少子高齢化が一番のポイントである。少子高齢化社会を迎える中で、高齢者のための福祉施設や、子どもを生み育てるための産婦人科、小児科など、医療の充実が非常に重要。大きな病院と個人病院のネットワーク化などが有効と考える。 (他1件)
	高齢化社会が見込まれる中で、「高齢者」と一括りで取り扱うのではなく、「前期高齢者」「後期高齢者」といった区分での、きめ細かな分析と事業対応が必要ではないか。
	高齢者人口が増加する中で、高齢福祉に携わる人材の確保が重要である。
	長野県では PPK（びんびんころり）運動が盛んで、働く人にはいつまでも働いてもらうようにすることにより、高齢者の就労率の高さと医療費の低さが全国No.1 になった。高齢者には生きがいを持ってもらうことが重要で、そのために高齢者が働くことを行政は支援するべきである。
健康について	市民憲章にある「健康で心ふれあうまちづくり」のためにどのような施策を行うのか。その実現のため「歩くこと」を掲げてはどうか。歩くことにより心身の健康、人と人の交流が生まれる。市内39の各地区に歩いて楽しいコースを設定してはどうか。「宇都宮88か所」などと名づけるのも良い。
II 教育・学習・文化分野に関するもの	
教育について	教育が一番重要と考える。市外から来た人に宇都宮は教育が良くないと言われる。教育をしっかりとやれば、コミュニケーションも良くなる。教育に力を入れてほしい。
	全国的には、いじめが急増していると聞く。その対策を総合計画の中で、強く掲げていくべきと考える。
	生徒児童の安全確保を図る上で、通学路の安全確保について、全市的に取り組むべきである。
文化について	教育と同様に文化面を高めていく必要がある。私は様々な教養講座を受講してきたが、廃止されたりしている。まち中に文化施設を作って他県からの誘客を図ってはどうか。他県に比べて劣っているように感じる。

Ⅲ 生活環境分野に関するもの	
環境にやさしいまちづくりについて	本市内では、リサイクルやエネルギー化が可能な資源や、資源活用のための設備が、十分に活用しきれていないように見受けられる。本市は、そうした資源や設備を今まで以上に十分に活用しながら、環境にやさしいまちづくりをするべきと考えている。
Ⅳ 産業・経済分野に関するもの	
農業振興について	農業構造改革について10年後の農業がどうなるかを考えると不安で仕方がない。国の品目横断的経営安定対策は栃木県に合わない。栃木県や宇都宮市にふさわしい農業があるべきだ。後継者育成のためには「もうかる農業」が必要で、それが「元気な農業」になる。
	農業は、これまでの、単なる1次産業としてではなく、加工から販売までに取り組み、2次産業、3次産業を巻き込んだ取り組みを進めていくべき。そのために、都市部との交流機能も含めた、農産物加工施設整備などへの支援を計画に掲げていくべきである。(他1件)
	本市河内・上河内地域が田園都市であることを地域特性・強みとしていく上で、道の駅の整備など地域拠点の形成が重要である。
工業振興について	本市人口推計の、2015年ピークに向けた緩やかな増加は、工業団地を始めとする企業立地の効果である。 その様な中、例えば本市東部への交通アクセスをはじめとした環境整備がなければ、企業の本市での継続操業も危うい。今後人口減少を迎える中で、十分な公共サービス水準を維持していくためには、税収確保の視点からも、産業力の強化は重要である。
Ⅴ 都市基盤分野に関するもの	
都市計画・開発とまちの魅力について	宇都宮の駅西地域、駅前大通沿いの再開発や施設整備等が順次進んでいるが、更に進めていくべき。宇都宮市の顔であるのだから。特に二荒山神社周辺は、市民皆が「わたしたちの宮」として愛着を持っているはずである。

<p>(都市計画・開発と まちの魅力について) つづき</p>	<p>中心市街地の再開発について、公共投資が適正かどうか疑問を感じる。東口よりも西口が優先ではないか。 また、再開発の手法は、主体となる民間の力量により、財政的な支援の可否を選択するなど出来ないのか。</p>
	<p>様々な公共・文化施設、商店街がある中心市街地に、地下利用などによる駐車場が必要である。集客力が上がり、空き地、空き店舗が、洒落た店や街角美術館になり、まち並みがきれいになると、中心市街地の活性化につながる。大きな財政的な負担もかかるが、大きな将来的なスパンを考えると地下駐車場が理想である。(他1件) また、大谷も、宇都宮が非常に誇れる景観地域であり、阻害要因の電線、電柱の地中化等景観向上に対応すべきである。</p>
	<p>宇都宮市内のマンションラッシュは、人口は増えるが、市内の魅力あるまちづくりに繋がるのだろうか。</p>
	<p>シャッター街化している中心商店街や多数のビジネスホテル立地、駐車場のあり方などに目を向けながら、都市計画をしっかりとし、また、都市景観を生かしたまちづくりに努めてほしい。(他1件)</p>
	<p>J R宇都宮駅前の広告・看板への対応、電線の地中化、街路樹整備などの景観向上の取組に力を入れていくべきである。(他2件)</p>
	<p>コンパクトシティ形成を目指していく中で、たとえば旧河内町時代のスローガン「水と緑」「スポーツ」など、地域の特色ある精神は活かされていくことが大切である。</p>
	<p>大型商業施設などは本市周辺部地域活性化の大きな誘因である、総合計画にもその方針を積極的に盛り込んで欲しい。</p>
<p>交通について</p>	<p>地域内交通は賛成だが、L R Tだけでなく、J R宇都宮駅の東西横断の円滑化等も含め、地域全体の交通網がどうあるべきかを先に議論すべきである。バス路線を活用することをぜひ積極的に考えて欲しい。(他1件)</p>
	<p>高等学校教育の通学や、文化施設利用の面で、本市周辺地域からの公共交通等アクセスの不便がある中で、学校選択の制限や、施設利用の利便性の低さを感じる。</p>
	<p>「みや環」など、宇都宮が進めてきた大規模道路網整備は素晴らしく、走り良さを実感している。</p>

<p>(交通について) つづき</p>	<p>人口減少しない都市となるためには道路行政が重要。名古屋の幅員100m道路は先見性があった。トヨタ自動車の工場が仙台に立地することになったのも道路のおかげ。4号線や環状線の渋滞を解消するような道路基盤整備が必要である。(他3件)</p> <p>公共交通の充実もあるが、宇都宮は自転車のまちになるべき。また、交通弱者の配慮し、自転車と歩行者の通行区分を明確に分離すべきである。そして、その実現により、CO2削減日本一のまちを目指すべきである。</p>
<p>VI 都市経営・自治分野に関するもの</p>	
<p>地域まちづくりについて</p>	<p>地域の計画づくりにおいては、地域の人々と十分に話し合いながら、共に作り上げないと机上の空論になる。</p> <p>自治会はまちづくりの基礎だが、自治会の加入率が低い。これでは根本が崩壊してしまう。自治会自身の努力にも限界がある。自治会の加入促進、組織強化に行政支援が必要である。(他2件)</p> <p>清原地区での「水辺の楽校」の取組や、「鬼怒川花火大会」での若い方々中心での街おこしの取組など、地域資源や人材を活かしたまちづくりは、大いに進めるべきである。地域組織などの、行政支援のみに頼ることない自立的な活動を大切にし、その側面支援に関する考えを計画に掲げていくべきである。</p>
<p>共生について</p>	<p>グローバル化を背景に「本市の住みやすさ」の検討の中に、外国人の視点が必要であり、計画に盛りこむべきであり、また、今後の日本の医療現場には外国人の看護師などの参入が見込まれており、対応を考慮すべきである。</p>
<p>行政組織について</p>	<p>自治会活動をしていて感じるのは、行政側のタテ割りである。案件毎に所管課が異なっており全く連携されておらず、総合的な対応ができていない。早急にタテ割りを解消してほしい。</p>

2 パブリックコメントについて

(1) 趣旨

「時代潮流と中長期的展望」「まちづくりの目標」などの『基本構想』や、「人口、経済の推計」や「分野別計画」などの『基本計画』の概要をまとめた『第5次宇都宮市総合計画（概案）』について、市民からの最終的なご意見・情報をお聞きするためパブリックコメントを実施した。

(2) 実施の概要

- ・意見募集期間：平成19年11月29日（木）～12月20日（木）〔22日間〕
- ・募集の方法：①市役所，地区市民センター，出張所等各施設，またホームページ上で「第5次宇都宮市総合計画（概案）」の公開
②意見募集用紙での意見受領

(3) 意見の概要

◆ 全体的事項に関するもの
・宇都宮らしさを全ての場面で表現してほしい。
・宇都宮市が積極的に取り組んでいることを発信してほしい。
・「将来のうつのみや像（都市像）」について、「多様性と協調性，そして行動力のうつのみや」を提案する。特に“行動力”については，道州制を視野に入れ，「攻めの宇都宮」として，リーダーシップを発揮していくべきである。
・「もったいない」を入れるべきだと思います。 今年「第1回もったいない全国大会」を開催しました。しかしながら，市内では市が本気で行った事業・活動にもかかわらず，共通認識は出来ていないようです。多くの市民に趣旨を理解していただき，宇都宮市から全国へ発信する大会だったはずだと認識しております。市民にはもちろん，将来の宇都宮市を背負っていく子供たちやその親までも含まれるはずで。市の今後の根幹となる計画の各所に徹底的にこだわって組み入れてください。
・「おもてなし」を入れるべきだと思います。 様々な場面で宇都宮市が積極的に採用しているキーワードを組み入れてほしいのです。昨年，宇都宮まちづくり会議の監修で発刊したおもてなしの心の普及啓発ツール「おもてなしBOOK」も現在までに5万部が発刊されています。市職員，教職員，小学校4年生，中学校2年生，各企業・団体などを中心に，大人はもちろん，特に児童や生徒には授業の副読本として，毎年，活用されています。今年度からは5千人の新成人にも記念品として配布されます。多くの市民がお互いを思いやり，おもてなしを持って接することができるまち・・・うつのみや。「おもてなし日本一を目指して！」ぜひ，組み入れるべきだと思います。

I 健康・福祉・安心分野に関するもの	
	<ul style="list-style-type: none"> これから直面する少子化に対し「どう歯止めを加えていくか」についての方策がなされていないような気がします。少子化の「原因を究明」すること、またその原因に対し「どう対策を練るか」が重要な課題であり、少子高齢化を防ぐ事前策ではないでしょうか。「少子高齢化は仕方ない・避けられない」では無く、少子高齢化に歯止めを掛ける施策を最重要課題とする必要があるのではないのでしょうか。
	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮市は「医療と福祉の特区」を目指すべき 小児科・産婦人科などの医師不足が騒がれ、医療に不安を抱く市民も少なくありません。また、死亡原因を分析すると、事故よりも病気死亡の方が多く、病気死亡の中でも第1位はガンです。今後もガンはかなりの勢いで進行することが懸念されています。乳ガンに関しては、女性15人に1人が発症します。ガンが進行した場合、治療に多額の費用が掛かり公的保険料支出の増大など、大きな問題も発生します。幸い、栃木県内にはガンの早期発見にもっとも有利といわれるPET施設が4箇所あり、いずれも宇都宮市都圏近郊（済生会、セントラルクリニック、獨協、自治医大）となります。 現在、ガンに有効とされる治療は「重粒子線治療」といわれていますが、まだ世界に3箇所しかありません。群馬県では前橋にこの施設の建設が進んでおり、稼動すると世界で4番目の施設となります。宇都宮市でも世界で5番目の「重粒子線治療施設（約150億）」を作ってはどうか。PETによるガンの早期発見と、重粒子線治療によるガンの撲滅を自治体の施策として掲げてください。
	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の活性化に関しては、単に公共交通（LRT）の整備だけでは、図ることが出来ないと考えられます。中心市街地の活性化を図るためには、中心部の人口を増加させる必要がありますが、新県庁への移転が終わった後の旧庁舎をシルバーマンションや高齢者・身障者の介護施設として県と共同で検討してはどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制に関して 総合計画の中にはP44に盛り込まれていますが、あまり重要視されていないようです。万が一に備え、大規模災害を想定した防災訓練を県と共同で検討する必要があるのではないのでしょうか。
II 教育・学習・文化分野に関するもの	
	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境に関して 宇都宮市では全国でも類を見ない「シックスクール問題対策マニュアル」が昨年教育委員会で策定されました。このマニュアルを無駄にしないためにも「教育環境の充実」の項目内に、このマニュアルの有効活用・推進を掲げ、宇都宮市が児童の教育環境に真剣に取り組んでいることを知らしめるべきではないのでしょうか。

Ⅲ 生活環境分野に関するもの	
	<ul style="list-style-type: none"> ・富屋地区は1級河川の田川が、やや中央部に流れています。この田川は各地域で堰によって分流し、農業用水はもちろん、生活用水として活用され、本市にとって重要な河川です。しかし、この田川は、治水のための河川改修によって川岸に樹木が全くない無味乾燥の川となってしまいました。すなわち、豊かな自然生態系が破壊されてしまいました。 かつては、各種の樹木が茂り、緑が美しく、川には淵や瀬があり、うなぎ、やまめ、なまず、あゆ等の魚が生息していました。 そこで、将来を見通した着実な事業として、川岸に樹木を植えて豊かな自然生態系を取り戻していただきたく、提言させていただきました。 富屋地区は、道路が東北道のインターチェンジや日光道と連携して交通の便が大変良く、国道119号の両側には素晴らしい桜並木があります。よって、田川の川岸（片側だけでも良い）に、桜の苗木を植えて、将来は富屋地区は桜の名所となり、周囲の山々とマッチした風光明媚な癒しの地区として、本市の大きな観光地区としても発展できるものと考えております。
Ⅳ 産業・経済分野に関するもの	
	<ul style="list-style-type: none"> ・なし
Ⅴ 都市基盤分野に関するもの	
	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会を踏まえ、コンパクトシティを目指す指針に関しては大いに賛成するところです。 ・市街化調整区域は、人口減少、少子高齢化、農業者等後継者不足、児童数の現象、地域活力の低下といった本市が想定している行政課題が集約している地域となってしまう。市街化調整区域における地区計画制度がある中で、中心市街地の活性化だけでなく、郊外地域での少子高齢化などの深刻な実情やそれを克服しようとする要望を踏まえ、地区計画を定めることなどにより、一定規模の開発が可能となるような施策を積極的に進めていただきたい。

・ネットワーク型コンパクトシティに関して

コンパクトシティに関するイメージが良く分かりません（不明確）だと思います。総合計画のP24に記載されている（ア）住宅地の項目で、「徒歩や自転車で行動できる範囲に日常生活に必要な生活利便性を備える」と書かれていますが、このような地域をネットワークで繋げることを想定しているのでしょうか、イメージがつかめません。

具体的には、駅東地区の「ベルモール周辺」や、南の「インターパーク周辺」などの住宅と商業施設が融合した地域を、西の大谷地区や北の河内地区などにも構築し、その間を公共交通機関でネットワーク化するという考えなのでしょうか。

それとも単に既存の中心市街地を有効活用し、そこに多様な機能を集積する考えなのでしょうか。後者の場合、郊外に規制を掛け中心地からの移転を阻止する形となり「他の自治体（青森・福島）でも試みたが効果が少ない」という調査結果を見たことがあります。

VI 都市経営・自治分野に関するもの

・「快適な暮らし」「笑顔のある暮らし」「豊かな心を生む社会」「健康・学び」これらは全て、市民と行政（政治）に密接に関わっています。一人一人の市民が行政や政治（自治）に関心を持ち、問題意識を持つことにより、より良い社会が形成されていくものと考えます。市民の政治（自治）に対する意識を養成するための施策も重要ではないでしょうか。全ての子どもたちが小さなうちから、自治が政治と密接に関わっていることを、教育の1つとして学ばせる施策なども重要だと考えます。